

対象区域はどんなまち？

将来像とまちづくりの目標及び戦略

取組方針

計画の実現に向けて

第1章 駅西グランドデザインとは

1. 計画策定の背景と目的

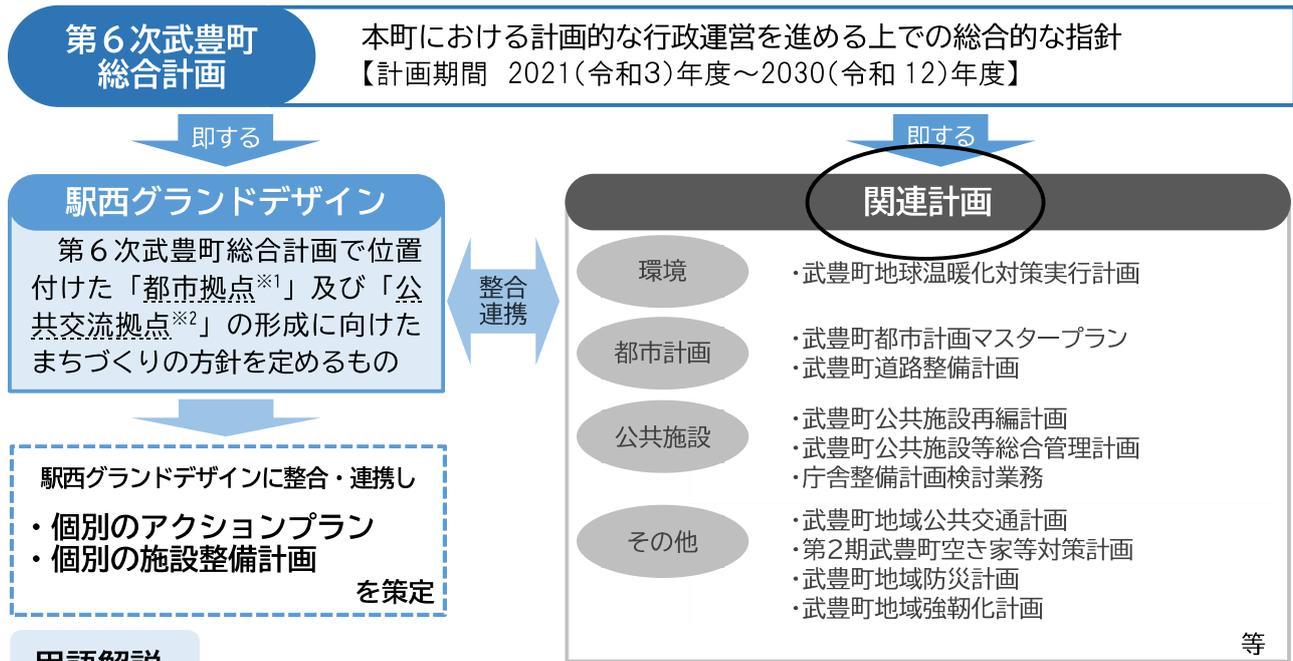
本町は、人口減少や少子高齢化の進行、防災減災対策の重要性の高まり等、社会潮流やまちを取り巻く社会経済情勢の大きな変化に対応するため、2021（令和3）年度を始期とする第6次武豊町総合計画及び武豊町都市計画マスタープランを策定し、その中で名鉄知多武豊駅周辺とJR武豊駅をつなぐ一帯を「都市拠点※1」、武豊中央公園周辺を「公共交流拠点※2」と位置づけています。

この「都市拠点※1」と「公共交流拠点※2」を一体的な一つの拠点としてとらえ、対象区域の具体的なまちづくりの方向性を明らかにするため、社会経済情勢の変化や地域の現状と課題、住民ニーズ等を踏まえながら、概ね20年先を見据えた長期ビジョンとして名鉄知多武豊駅西グランドデザイン（以下、駅西グランドデザインという。）を策定しました。

駅西グランドデザインでは、対象区域において住民等の共感を得られる将来像を描き、まちづくりの目標と実現に向けた取組方針を明らかにし、新たなまちづくりを住民等とともに戦略的に展開していくためのロードマップ等も明らかにしています。

2. 計画の位置づけ

駅西グランドデザインは第6次武豊町総合計画に位置付けた「都市拠点※1」及び「公共交流拠点※2」の形成に向けた具体的なまちづくりの方針を関連計画と整合・連携しながら定めるものです。



用語解説

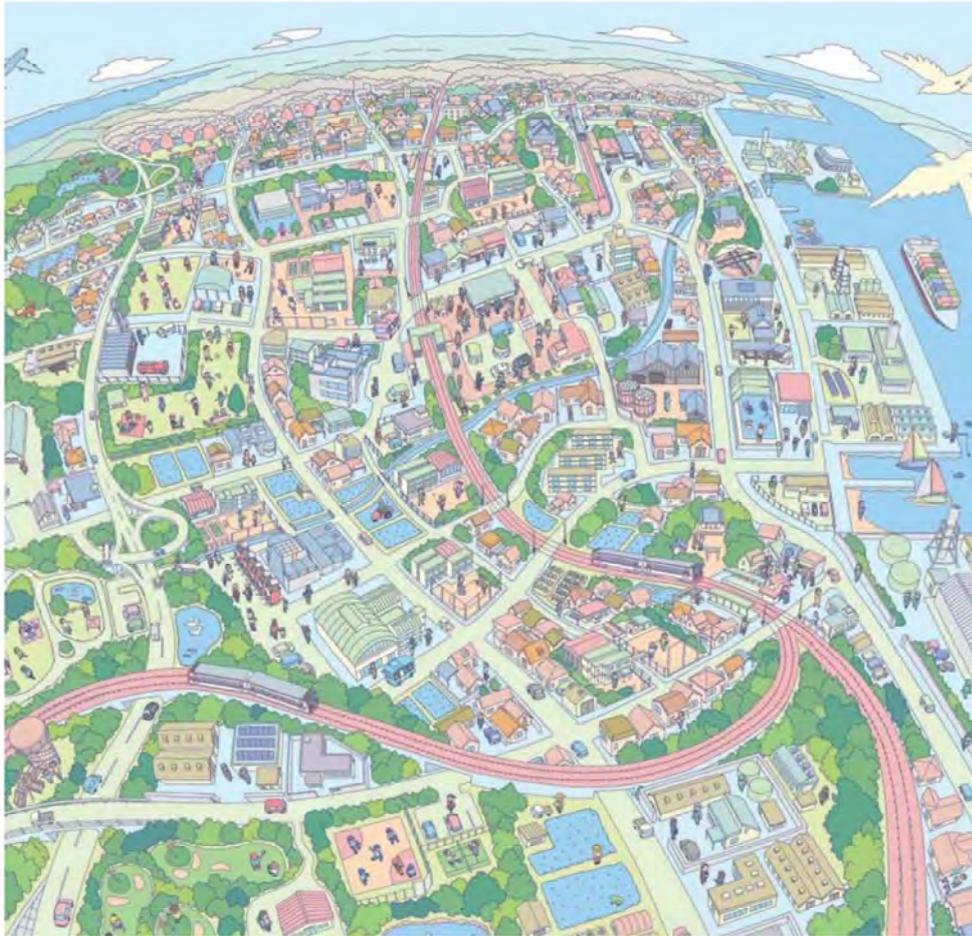
- ※1 都市拠点：名鉄知多武豊駅とJR武豊駅、2つの駅をつなぐ一帯における、まちの中心として商業・サービス・住居等の機能が整い、住民や来訪者にとって魅力ある拠点のことです。
- ※2 公共交流拠点：ふれあいの場等として、様々な住民が意欲的に交流し、関わりながら、公共施設や公園・緑地等が充実するまちづくりを目指す拠点のことです。

3. 上位計画及び主な関連計画等

(1) 上位計画

第6次武豊町総合計画（本計画と関連する部分を抜粋、該当部分は下線で示す）

第6次武豊町総合計画は、あらゆる分野の計画の基本となる行政運営の最上位計画で、町が目指すべき将来像ならびにそれを実現していくための施策方針を定めた計画です。駅西グランドデザインでは土地利用構想において位置づけられた都市拠点^{*1}及び公共交流拠点^{*2}の具体的なまちづくりに向けた取組方針を示します。



2021
to
未来のまちへ

この未来予想図は、
いまから10年以上先の、
未来のまちの姿をイメージし
描いたものです。

心つながり
みんなで作る
スマイルタウン

この将来像の実現のために、
これから武豊町がどんなまちを目指し、
どのようにまちづくりを進めていくのか。
まちの未来をみんなで考え、
ともにつくっていきましょう。

まちの将来像	心つながり みんなで作る スマイルタウン
まちづくりの目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定住先として選択されるまち 2. 安心して子どもを産み育てることができるまち 3. 楽しく学び、いきいきとした生活ができるまち 4. 人と人がつながり、互いに支え合い、健康で安心して暮らせるまち 5. 災害に強く、安全・安心に暮らせるまち 6. 産業が持続・発展する活力のあるまち 7. 環境にやさしいまち 8. 多様な主体が連携・協働するまち 9. 効率的で効果的な行政運営のまち

対象区域はこんなまち？

将来像とまちづくりの目標
及び戦略

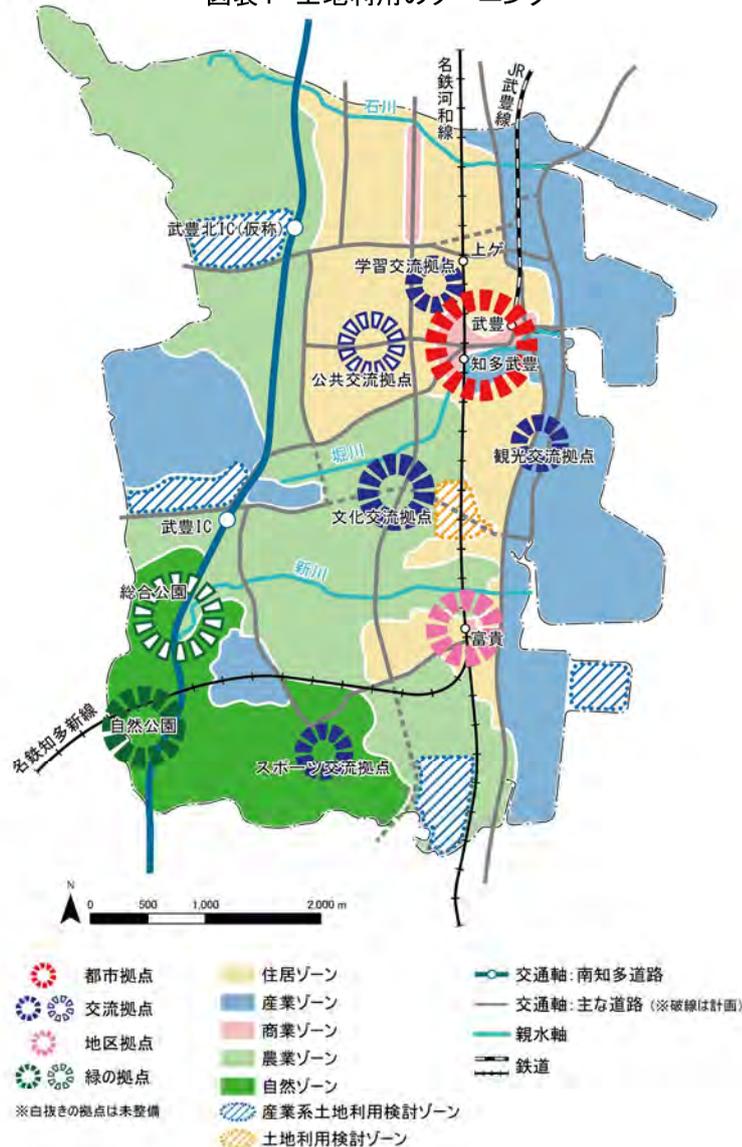
取組方針

計画の実現に向けて

土地利用構想

<拠点形成の方針>

図表1 土地利用のゾーニング



都市拠点^{※1} 名鉄知多武豊駅とJR武豊駅、2つの駅をつなぐ一帯を本町の都市構造における中心的な核である都市拠点^{※1}に位置づけます。都市拠点^{※1}では、まちの中心として商業・サービス・住居等の機能が整い、住民や来訪者に魅力ある拠点形成を進めます。

交流拠点 都市拠点^{※1}に近接し、今後、公共公益施設の集積の可能性を検討していく武豊中央公園周辺を始め、文化、生涯学習、憩い、ふれあいの場等として、住民が活発に交流し、意欲的に活動できるよう、次のような拠点形成を進めます。

- ・ 公共交流拠点^{※2}：武豊中央公園周辺
- ・ 学習交流拠点^{※3}：中央公民館、図書館、歴史民俗資料館等
- ・ 文化交流拠点：町民会館、総合体育館等
- ・ 観光交流拠点：地域交流施設、屋内温水プール等
- ・ スポーツ交流拠点：運動公園等

用語解説

※1 都市拠点：1頁参照、※2 公共交流拠点：1頁参照

※3 学習交流拠点：文化、生涯学習の場等として、様々な住民が意欲的に交流し、関わりながら、中央公民館、図書館等の公共施設が充実するまちづくりを目指す拠点のことです。

重点施策方針

1. 住みよいから、住みたいまちへ

- ・まちの良さ・魅力の発掘、積極的な情報発信、雇用確保、定住のための良好な環境整備等を戦略的に展開し、“住みたい”といわれるまちを目指します。



2. 子どもの学び・育ちを応援するまちへ

- ・学校はもとより地域の人々や団体が協力して、子どもたちが色々なことに挑戦し、学び、育つ環境づくりを進めるとともに、子育て・子育ちをサポートする体制の充実を図ることによって、若者や子育て世代にとって魅力あるまちを目指します。



3. みんなが元気に活動・活躍するまちへ

- ・老若男女すべての住民が楽しみながら、社会の一員としての役割を担い、様々な場面でいきいきと活動・活躍できるまちづくりを目指します。



分野別計画

分野1 都市環境

1-1 市街地・住環境

■ 駅周辺にふさわしいまちづくり

- ・名鉄知多武豊駅周辺の面的な都市基盤整備による周辺交通網の再構築や公共機能の移転検討等、駅前にふさわしいまちづくりを進めます。

- ・住民、地域、団体、NPO、企業との協働や、公共空間の利活用等によるにぎわいづくりを進めます。
- ・鉄道、バス等の公共交通の利便性を活かしたまちなか居住や商業機能等の立地誘導を目指します。

■景観を活かしたまちづくり

- ・名鉄知多武豊駅周辺をまちの顔にふさわしい景観の整備を進めます。

1-2 交通基盤

■駅前広場の整備

- ・名鉄知多武豊駅東側の駅前広場の整備を行います。
- ・名鉄知多武豊駅西側の駅前広場の整備の検討を行います。

■公共交通の充実

- ・主に高齢者の交通利便性向上を図るため、鉄道駅・買い物・病院・公共施設を中心としたコミュニティバス路線等の地域公共交通網の整備を行います。

分野5 安全・安心

5-1 防災

■災害に強い基盤の構築

- ・道路ネットワークの整備及び強化を進めるとともに、無電柱化の検討を進めます。
- ・防災機能を備えた施設の整備を進めます。

5-2 防犯・交通安全

■歩行者や自転車の安全確保

- ・主要な歩行者動線となる道路については、自転車歩行者道の確保、段差の解消によるバリアフリー化、交差点改良等の道路の整備・改良を計画的に進めます。

分野6 産業・交流

6-2 観光・交流

■駅周辺の魅力向上

- ・名鉄知多武豊駅周辺への店舗の立地誘導、駅東の町有地の有効活用等により、にぎわいづくりを促します。
- ・名鉄知多武豊駅とJR武豊駅間において、現在行われているイベント等も含め、商業団体や地域と連携したにぎわいを創出できる催事等の開催を検討します。

■地域交流施設周辺の魅力向上

- ・駅周辺のサイン看板の設置等、地域交流施設を拠点として、みそ蔵や神社仏閣、JR武豊駅周辺の回遊性を高め、活性化を推進します。
- ・大足・里中地区を中心とするみそ蔵のあるまちなみを保存し、魅力ある景観の活用により誘客を図ります。

分野8 まちづくり・地域経営

8-1 住民活動・地域活動(住民協働)

■まちづくりの新たな担い手の発掘・育成

- ・まちづくりに参画できる機会を増やすとともに、周知・募集方法等の改善に努めます。
- ・住民や町職員が協働のまちづくりについて理解を深めるため、研修等の学習の機会を充実します。

■多様な主体による地域活動の活性化

- ・ NPO、住民団体、企業と行政のパートナーシップ(協力関係)の構築を進め、地域の課題解決、住民サービスの向上を図ります。
- ・ 地域が抱える課題に対し、住民と行政が一体になって課題を解決する活動を推進します。
- ・ 地域住民の交流参加と連帯感の醸成を目的とし、住民が主体となって取り組む活動を支援します。
- ・ シニア世代が地域に携わり、新たな生きがいを持って活躍できる仕組みを検討します。

8-3 タウンプロモーション

■町外へ向けたまちの魅力発信

- ・ 町外在住者をターゲットに、名古屋市中心部までのアクセスの良さ等まちの暮らしやすさをアピールし、移住・定住の促進を図ります。

■シビックプライド^{※4}の醸成

- ・ 自分たちが生まれ育ったまちに誇りと愛着を持ってもらえるよう、子どもたちがまちの魅力を学ぶ機会の充実を図ります。
- ・ 参加者の交流や触れ合いを深め、まちへの愛着を醸成してもらえるよう、誰もが気軽に参加できるイベントの充実を図ります。
- ・ 関係機関と連携し、地域の特産物や地域資源、歴史的資源を活用した地域活性化の取組・活動を推進します。
- ・ 公園、河川、花壇等、住民や地元企業等の参加によるアダプトプログラム^{※5}の促進を図ります。

用語解説

※4 シビックプライド：「シビック（市民の／都市の）」と「プライド（誇り）」を合わせた言葉で「都市に対する住民の誇り」のことです。

※5 アダプトプログラム：アダプトとは養子という意味で、住民、企業、団体等が公園や広場等の公共施設の里親となり、その維持管理を担ってもらうというものです。

(2) 主な関連計画等

①武豊町都市計画マスタープラン（本計画と関連する部分を抜粋、該当部分は下線で示す）

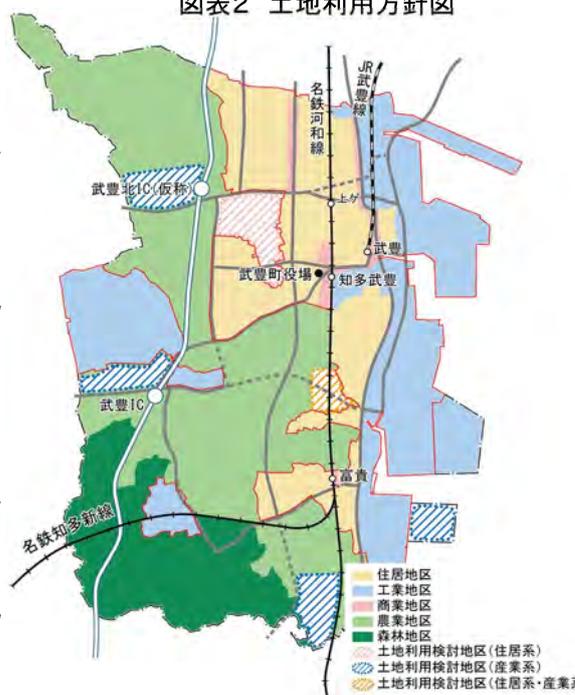
武豊町都市計画マスタープランは、本町の都市計画に関する総合的な指針として都市構造の将来ビジョンの実現に向け、土地利用を始めとする都市づくりの方針を示す計画です。

対象区域はこんなまち？

将来像とまちづくりの目標及び戦略

取組方針

計画の実現に向けて

<p>都市づくりの基本方向</p>	<p>基本方向① 便利で暮らし続けられる持続可能な都市づくり 基本方向② 活力・にぎわいを創出する都市づくり 基本方向③ 安全・安心な都市づくり</p>
<p>都市づくりの目標</p>	<p>目標① 知多半島で快適に生活できる住宅都市 目標② 豊かな自然環境と共生する環境共生都市 目標③ 都市の活力・にぎわいを生み出す産業交流都市 目標④ 災害に強い防災都市</p>
<p>分野別の方針</p>	<p><土地利用の方針></p> <p>住居地区 これまで住宅を主体とした市街地を形成してきた地区や今後計画的に住宅地を形成していく地区を住居地区に位置づけ、快適な居住環境を有する住宅地の形成を図ります。</p> <p>商業地区 多くの住民や来訪者が集まる鉄道駅周辺や幹線道路沿道を商業地区に位置づけ、商業施設・業務施設が多く立地する商業地の形成を図ります。</p> <p>○名鉄知多武豊駅からJR武豊駅周辺の都市拠点※1は、商業・サービスといった第3次産業の機能を強化するとともに、これら機能を支えるまちなか居住を促進し、本町の中心としてふさわしい土地利用の誘導を図ります。</p> <p>土地利用検討地区 ○都市拠点※1に近接する武豊中央公園及びその周辺における計画的に市街地形成を誘導する地区では、地区の特性に応じつつ、若者世代を始めとする多様な世代にとって良好な居住環境の形成を図るとともに、公共機能の移転先として整備を検討します。</p> <div style="text-align: right;"> <p>図表2 土地利用方針図</p>  </div>

用語解説

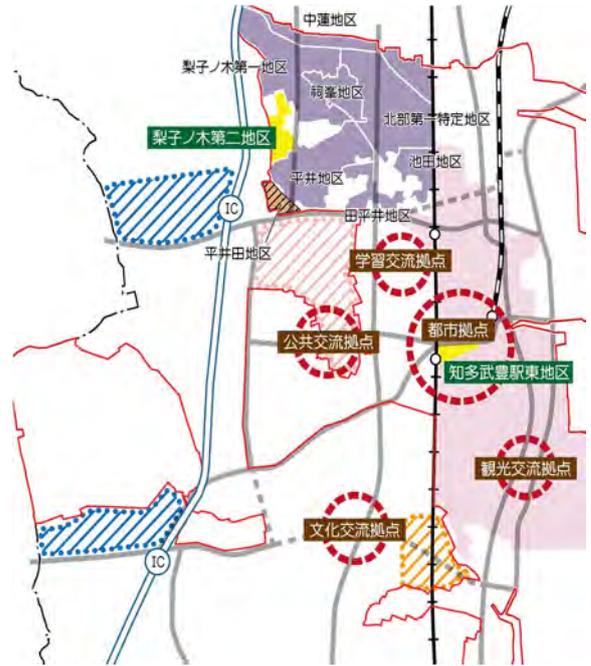
※1 都市拠点：1頁参照

分野別の方針

<都市環境形成の方針>

○名鉄知多武豊駅からJ R武豊駅周辺の都市拠点※1において、町全体の魅力向上につながる商業・サービス・住居等の機能の充実を図り、まちの玄関口※6としてふさわしい、にぎわいのある「まちの顔」づくりを進めます。「まちの顔」づくりにあたっては、駅前町有地の活用を図るとともに、名鉄知多武豊駅西側再編の検討を行います。

図表3 都市環境形成方針図

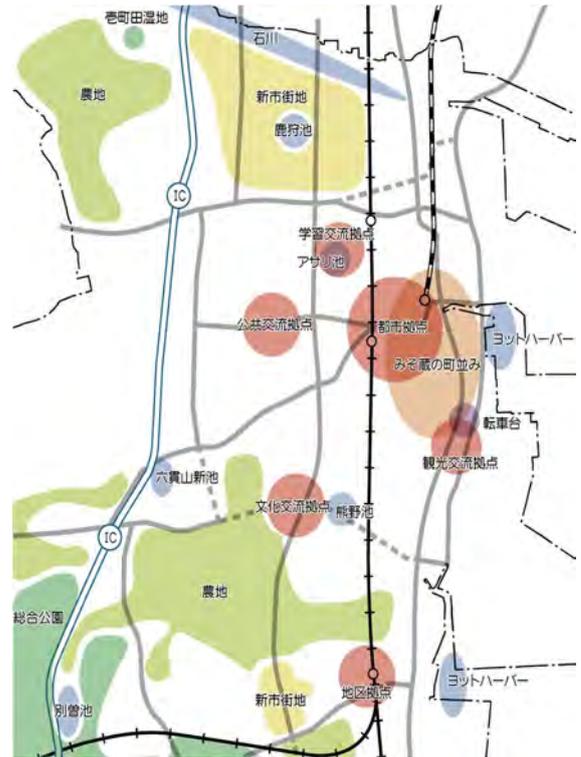


<都市景観形成の方針>

○名鉄知多武豊駅からJ R武豊駅周辺の都市拠点※1を始め、交流拠点や地区拠点※7においては、本町の顔としてふさわしい魅力的な景観形成を進めます。

○拠点間のウォークラブル※8なネットワーク形成にあたっては、歩いてまちを楽しむことができ、自然を感じられるよう、沿道の土地利用に応じた良好な町並みの形成を検討します。

図表4 都市景観形成方針図



用語解説

※1 都市拠点：1頁参照

※6 まちの玄関口：町を訪れる人が最初に目にする鉄道駅及び駅前空間のあるまちなみで、まちを印象づけるにぎわいを創出する場所であり、町民にとっては愛着のもてる場所です。

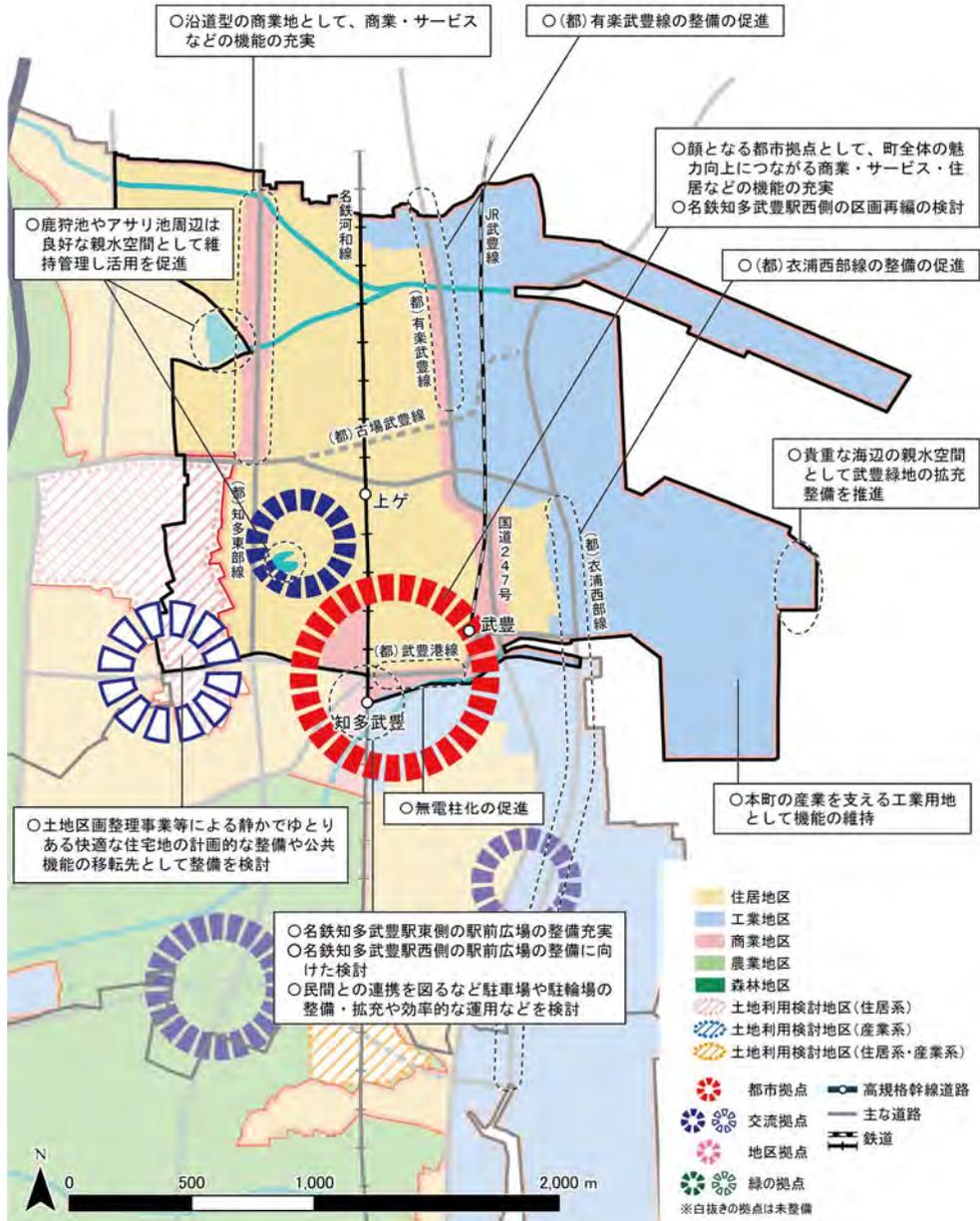
※7 地区拠点：富貴駅周辺における暮らしに必要な機能が整った、本町南部の暮らしを支える拠点です。

※8 ウォークラブル：安心して徒歩等で移動できるとともに、移動しながらまちの魅力や自然を楽しむことで、「歩く」を意味する walk と「できる」の able を組み合わせた造語です。

地域別構想
※緑丘地域、武豊
地域及び衣浦地
域の記載を抜粋

<地域のまちづくりの方針>

図表5 まちづくり方針図(武豊地域)



土地利用・都市環境

- ・公共交流拠点※2に位置づけられた武豊中央公園周辺は、土地区画整理事業・地区計画等による静かでゆとりある快適な住宅地の計画的な整備や公共機能の移転先として整備を検討します。【衣浦地域、武豊地域】
- ・名鉄知多武豊駅からJR武豊駅周辺は本町の顔となる都市拠点※1として、町全体の魅力向上につながる商業・サービス・住居等の機能の充実を図ります。また、名鉄知多武豊駅西側の区画再編を検討します。【衣浦地域、武豊地域】

道路・交通環境

- ・武豊北インターチェンジ(仮称)へアクセスする(都)六貫山線や(都)武豊港線の整備の推進に努めます。【緑丘地域】
- ・名鉄知多武豊駅東側の駅前広場の整備充実を進めます。【武豊地域】

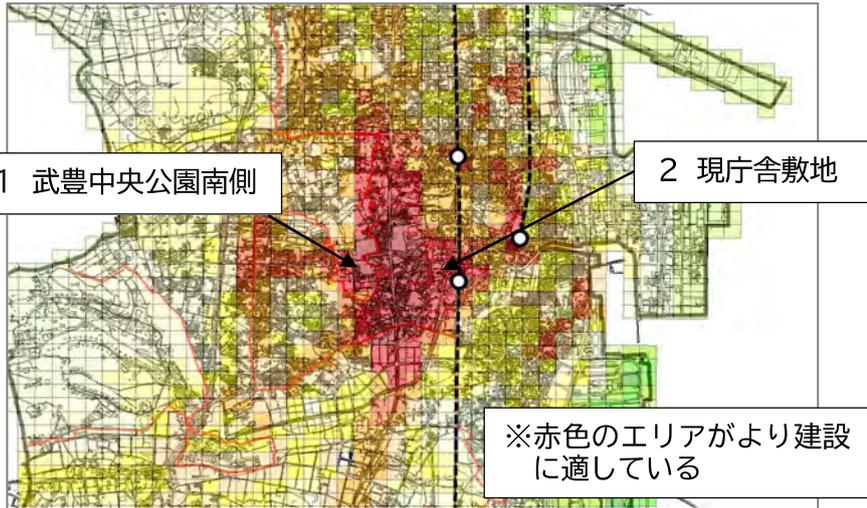
- ・名鉄知多武豊駅西側の駅前広場の整備に向けた検討を行います。
【武豊地域】
- ・民間との連携を図る等駐車場や駐輪場の整備・拡充や効率的な運用等を検討します。【武豊地域】
- ・交通混雑や事故の危険性等問題のある幹線道路の交差点改良を推進します。【武豊地域】
- ・既成市街地では後退敷地による道路拡幅を促進し、防災・救急活動等の支障となる狭あい道路の解消に努めます。【緑丘地域】

公園・緑地・景観

- ・鹿狩池やアサリ池周辺は良好な親水空間として維持管理し、活用を促進します。【武豊地域】
- ・名鉄河和線の東側では既成市街地の良好な住宅地の形成を促進するため、ポケットパークやオープンスペース等の整備を検討します。【武豊地域】
- ・市街地の緑化を進め、農地や緑地と調和した潤いある住環境を形成します。【緑丘地域】

②庁舎整備計画検討業務

住民にとっての利便性、安全性を考慮し、建設コストと立地条件から、役場庁舎の今後のあり方について検討を行い、庁舎整備の方向性をとりまとめました。

<p>現庁舎の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災拠点としての機能強化 ・老朽化の改善 ・狭あい化の解消 ・利便性の向上 ・安全性の確保 ・設備環境の充実 ・立地環境の充実 ・機能性の拡充
<p>基本的な考え方と主な整備方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが使いやすく、豊かな交流を育む庁舎 ・災害に強く、安心して利用できる庁舎 ・環境にやさしく、脱炭素社会の実現に貢献する庁舎 ・将来の変化に柔軟に対応し、効率的・効果的に働くことができる庁舎
<p>適地の選定</p>	<p>・6か所の建設候補地から災害想定や人口重心、幹線道路やICからのアクセス等を考慮し、立地に適している場所として武豊中央公園南側と現庁舎敷地の2か所を選定しました。</p> <p style="text-align: center;">図表6 適地評価の検討図</p>  <p style="text-align: center;">※赤色のエリアがより建設に適している</p>
<p>総合評価</p>	<p>・庁舎整備において重要と考えられる機能面、経済性等の視点から検討した結果、「武豊中央公園南側に移転、新築」が総合的に優れていると評価しました。</p> <p style="text-align: center;">図表7 庁舎整備イメージ図</p> <p>武豊中央公園南側/新築 案</p> <p>【防災的視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署、防災機能を有する武豊中央公園と一体となった防災拠点の形成が可能 <p>【経済的視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮庁舎整備工事が不要 <p>【施工的視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解体工事や仮庁舎整備工事等を含まないことから最も事業期間が短い <p>【機能的視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地規模の制約を受けず、ゆとりある空間の計画が可能 

<p>今後の検討の進め方</p>	<p>【まちづくりの方向性との整合】 まちづくりの観点から求められる庁舎の役割を整理し、武豊らしさを表現した庁舎となるよう検討します。</p> <p>【住民参加による検討体制】 さまざまな方法による住民意向の収集等、計画を進めていく中で多様な検討体制を確立し、だれもが利用しやすく愛着のもてる庁舎を実現できるだけでなく、多様な交流を育む場として、庁舎が活発に利用されることを目指します。</p>
------------------	---

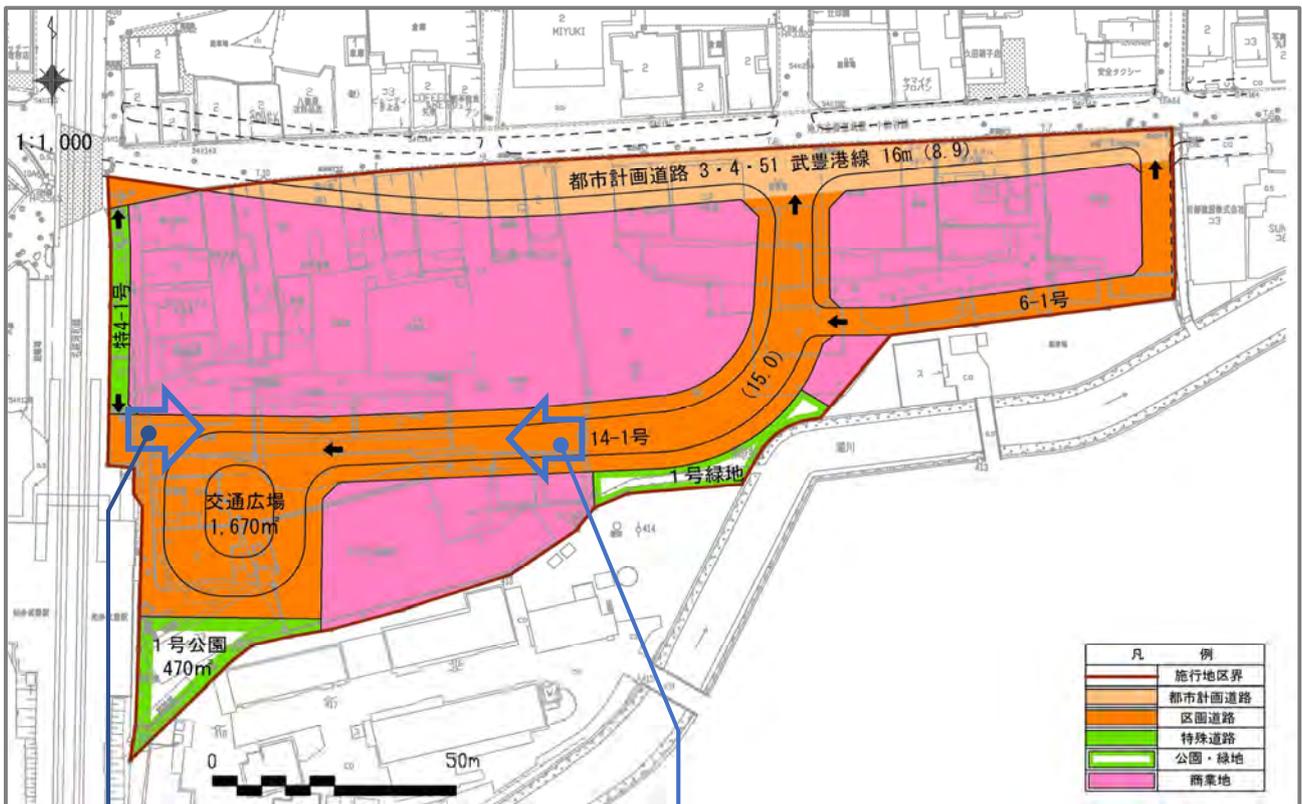
③知多都市計画事業 知多武豊駅東土地区画整理事業の概要

名鉄知多武豊駅の東側は、駅前広場やアクセス道路が未整備であり、有効な土地利用ができない状況にあります。このため、(都)武豊港線（主要地方道武豊小鈴谷線）の拡幅整備と併せて駅東側約1.5haの区域を土地区画整理事業により基盤整備と併せた土地の再編を行い、活力ある駅前中心市街地の再生・再構築を図る事業です。

事業名	知多都市計画事業知多武豊駅東土地区画整理事業
施行者	武豊町
施行面積	約1.5ha
施行期間	2013（平成25）年度～2024（令和6）年度
事業費	2,421,000千円

（令和4年5月時点）

図表8 知多武豊駅東土地区画整理事業の設計図



商業施設の立地が進められている
※左側店舗はドラッグストア



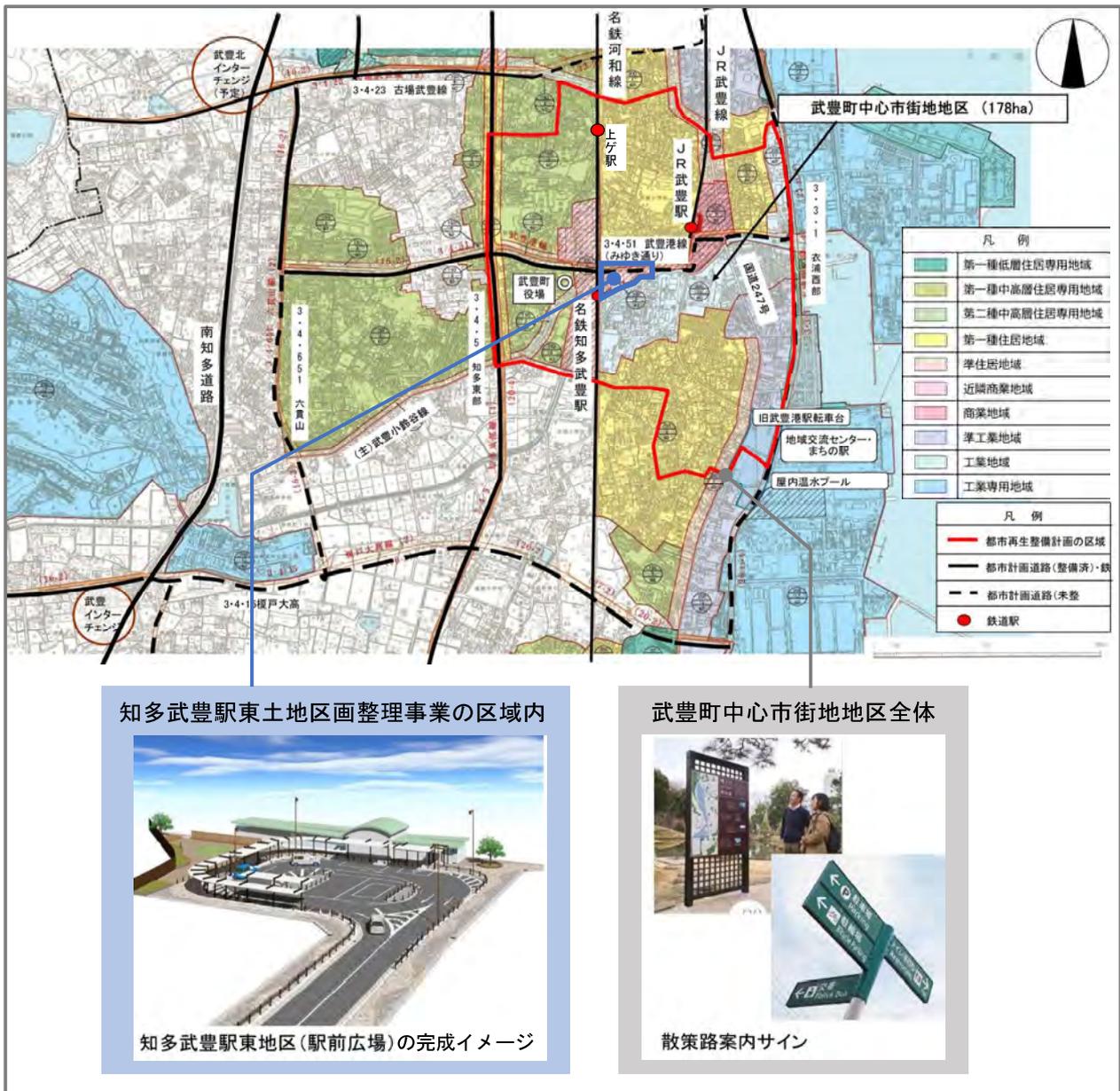
名鉄知多武豊駅東側の交通広場に接続する
区画道路の整備が進められている

④都市再生整備計画

まちの玄関口※6である鉄道駅を中心としたにぎわいと安全・安心のまちづくりを目標とし、名鉄知多武豊駅周辺の魅力を高めるとともに、駅を中心とした観光・交流施設とのアクセスを向上し、来訪者の回遊性を高めることや、まちの駅、豆みそ・たまりの蔵元、寺社仏閣等の地域資源を活かしながら、地区のにぎわいの創出、地区住民の安全・安心につながる、災害に強いまちづくりを進めるため、都市再生整備計画（武豊町中心市街地地区）を作成しています。

この計画の中で、知多武豊駅東土地区画整理事業の区域内においては、駐輪場や駅前広場の歩道へ設置する屋根等の整備が計画されています。

図表9 武豊町中心市街地地区(都市再生整備計画)



用語解説

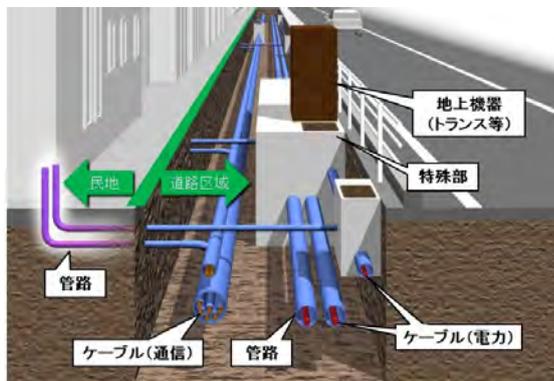
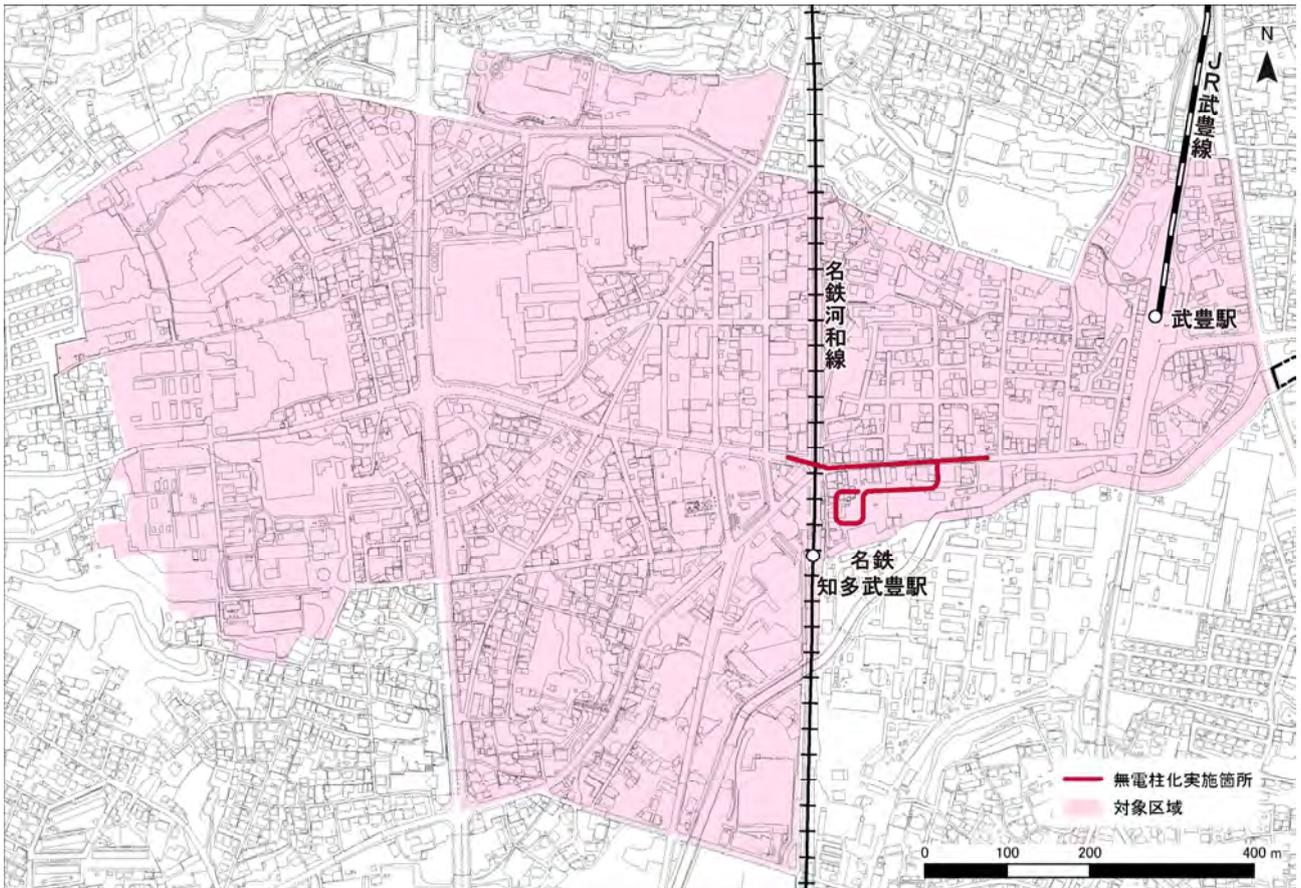
※6 まちの玄関口：8頁参照

⑤武豊町無電柱化推進計画

武豊町無電柱化推進計画は、地震から町民の生命・財産を守る強靱なまちづくりの一環として策定された、まちの魅力あふれる美しいまちなみと、安全・安心な暮らしを確保するために無電柱化を推進する計画です。

この計画では、知多武豊駅東土地区画整理事業区域内において、景観整備を進め、バリアフリー化や道路の拡幅工事等に合わせて、第二次緊急輸送道路^{※9}である(都)武豊港線における無電柱化を推進します。

図表10 無電柱化実施箇所



電線共同溝イメージ(国土交通省)

用語解説

※9 第二次緊急輸送道路：緊急輸送道路は、災害直後から、避難・救助を始め、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線です。第二次緊急輸送道路は、第一次緊急輸送道路（南知多道路等）を補完し、地域的ネットワークを形成する路線及び役場等に連絡する路線で、無電柱化により緊急時の道路の安全性確保が期待されます。

対象区域はこんなまち？

将来像とまちづくりの目標及び戦略

取組方針

計画の実現に向けて

⑥武豊町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

武豊町地球温暖化対策実行計画は、町の特性を生かしつつ、住民・地域・事業者・行政が一体となって、温室効果ガスの排出削減に向けた対策と気候変動への適応を総合的かつ計画的に推進する計画です。

<p>2030年の暮らしや まちのイメージ</p>	<p><暮らし・ビジネス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した生活があたり前になり、個人や地域が脱炭素化に向けた取組をしています。 ・環境に配慮した事業活動や脱炭素経営に取り組む企業が増え、町内の企業価値が向上しています。 ・エネルギーを自給自足できる住宅や建物が普及し、健康で快適な暮らしや健全な事業活動を送ることができています。 <p><エネルギー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーの導入が様々な形で進みつつあり、地域と共生したエネルギーの地産地消も始まっています。 <p><移動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代自動車の普及や車に頼らず移動しやすい環境整備が進み、移動時の低炭素化が進んでいます。 <p><まちづくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・もやさなければならぬごみやプラスチックが減り、資源が大切に使われています。 ・まちの豊かな緑がみんなの力で大切に保全されています。 ・気候変動の影響に対する町の防災・減災対策により、安全性の高いまちになっています。
<p>温室効果ガスの削減目標</p>	<p>本計画の目標(2030年度):2013年度比44%削減 長期目標(2050年度):温室効果ガス排出量実質ゼロ</p>
<p>本町における地球温暖化対策</p>	<p><暮らしとビジネスを変える></p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅・建物の省エネ化 ・公共施設における省エネの徹底 等 <p><エネルギーを変える></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設における再生可能エネルギーの積極導入 ・家庭や事業所における再生可能エネルギーの導入促進 ・地域と共生した再生可能エネルギーの導入拡大 等 <p><移動を変える></p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代自動車の導入促進 ・公共交通の利用促進 ・歩行者・自転車等の通行空間整備 ・地産地消の推進 等 <p><資源循環の流れを変える></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量化促進 ・資源循環の推進 <p><脱炭素型のまちづくりに変える></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの緑化推進 ・都市拠点^{※1}の整備 <p><適応策を広め、進める></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水環境・水資源及び自然生態系における適応策の推進 ・自然災害における適応策の推進 ・生活における適応策の推進 等 <p><環境への理解を深め、次世代に引き継ぐ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習の推進 ・環境情報の啓発

対象区域はどんなまち?

将来像とまちづくりの目標及び戦略

取組方針

計画の実現に向けて

用語解説

※1 都市拠点：1頁参照

⑦武豊町地域公共交通計画

武豊町地域公共交通計画は、町内の地域公共交通ネットワークを形成するすべての地域公共交通の確保・維持・改善について一体的に取り扱い、時代の変化に沿った誰もが安全で安心して快適に移動できる環境づくりを目指す計画です。

対象区域はどんなまち？

将来像とまちづくりの目標及び戦略

取組方針

計画の実現に向けて

計画の将来像	誰もが安全・安心して快適に移動できるまち
基本的な方針	<ul style="list-style-type: none"> ①市街化区域内での交通サービスの確保維持 ②ニーズが認められたエリアでの交通サービスの提供 ③公共交通を活用する生活スタイルへの転換 ④TEAM ONE TAKETOYO^{※10}体制による総合的な移動サービスの提供(地域協働) ⑤時代の変化に対応した公共交通サービスの検討
計画を達成するために行う事業	<ul style="list-style-type: none"> ①市街化区域内での交通サービスの確保維持 <ul style="list-style-type: none"> ○幹線的バスの「武豊町コミュニティバス」の継続運行と路線・ダイヤ等の見直し ○車両の追加や入れ替えの検討 ②ニーズが認められたエリアでの交通サービスの提供 <ul style="list-style-type: none"> ○接続タクシーの継続運行 ○接続タクシーの運行サービスの見直し ③公共交通を活用する生活スタイルへの転換 <ul style="list-style-type: none"> ○公共交通を活用する生活スタイルへの意識転換を図るための住民への各種アプローチ活動 ○住民が自ら考え、主体的に実施する、利用促進事業。また、これら活動を支援するための環境づくり ④TEAM ONE TAKETOYO^{※10}体制による総合的な移動サービスの提供(地域協働) <ul style="list-style-type: none"> ○障がいタクシー料金助成、バス運賃助成等のあり方の検討・実施 ○社会資本総合整備計画等の関連施策の計画的な実施 <ul style="list-style-type: none"> ・知多武豊駅東土地区画整理事業により、名鉄知多武豊駅東側にてロータリーや自転車駐輪場整備事業が実施されています。当該基盤整備を計画的に実施します。 ・これら基盤整備と併せて、住民の協力を得ながら駅前でのにぎわいづくりや自転車を活用したまちづくりを展開します。 ⑤時代の変化に対応した公共交通サービスの検討 <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティバスの電動化 <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題への対策として、武豊町ではゼロカーボンシティの推進を令和3年2月2日に宣言しており、二酸化炭素の実質排出量のゼロを目指すため、公共交通分野においても「コミュニティバスの車両更新時期にあわせて電動化」への転換を進めます。 ○町の交通のあり方、時代の変化による技術動向の研究による地域将来の検討

用語解説

※10 TEAM ONE TAKETOYO：町が丸となってすすめる体制を意味します。

エスディーゼーズ
⑧SDGsの推進

2015（平成27）年に開催された「国連持続可能な開発サミット」において、誰一人取り残さない社会の実現を目指し、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ（行動計画）」が採択され、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」が掲げられました。

このSDGsは、発展途上国のみならず、先進国も含めすべての国にとっての普遍的な目標であり、本町でも17の目標と第6次武豊町総合計画に掲げる施策方針を関連づけて推進しています。

図表11 SDGsの17の目標



⑨ゼロカーボンシティ宣言

令和3（2021）年2月2日、本町は、将来にわたって健康で安心して暮らすことができる環境を次世代へ引き継いでいくため、「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指す「ゼロカーボンシティ」への挑戦を表明しました。

図表12 ゼロカーボンシティ宣言書

**武豊町
ゼロカーボンシティ宣言**

近年、世界各地では、地球温暖化が原因とみられる、猛暑や豪雨などの異常気象が多発しており、我が国においてもこれまでに経験したことがない、豪雨や台風等により甚大な被害が多発しております。

菅首相は、令和2年10月26日の所信表明演説において、2050年までに国内の温室効果ガスの排出を実質ゼロにすると表明されました。

本町の臨海部には、製造業を中心に多くの工場・事業所が立地しており、これらの企業の取り組みが、本町の温室効果ガスの削減など地球温暖化防止対策を進めるうえで、大きなウェートを占めることが考えられます。

そのため、町内の主要企業に対して、地球温暖化対策等に関する意向調査を実施した結果、ほとんどの企業から前向きな回答が得られました。

更に、令和3年度からスタートする「第6次総合計画」では、省資源・低炭素化に向けた取り組みを推進し、環境にやさしいまちを目指すこととしております。

本町においても、将来にわたって健康で安心して暮らすことができる環境を次世代へ引き継いでいくため、住民・地域・企業・行政が一体となって、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを、本日ここに表明します。

令和3年2月2日
武豊町長 萩山芳輝



対象区域はこんなまち？

将来像とまちづくりの目標
及び戦略

取組方針

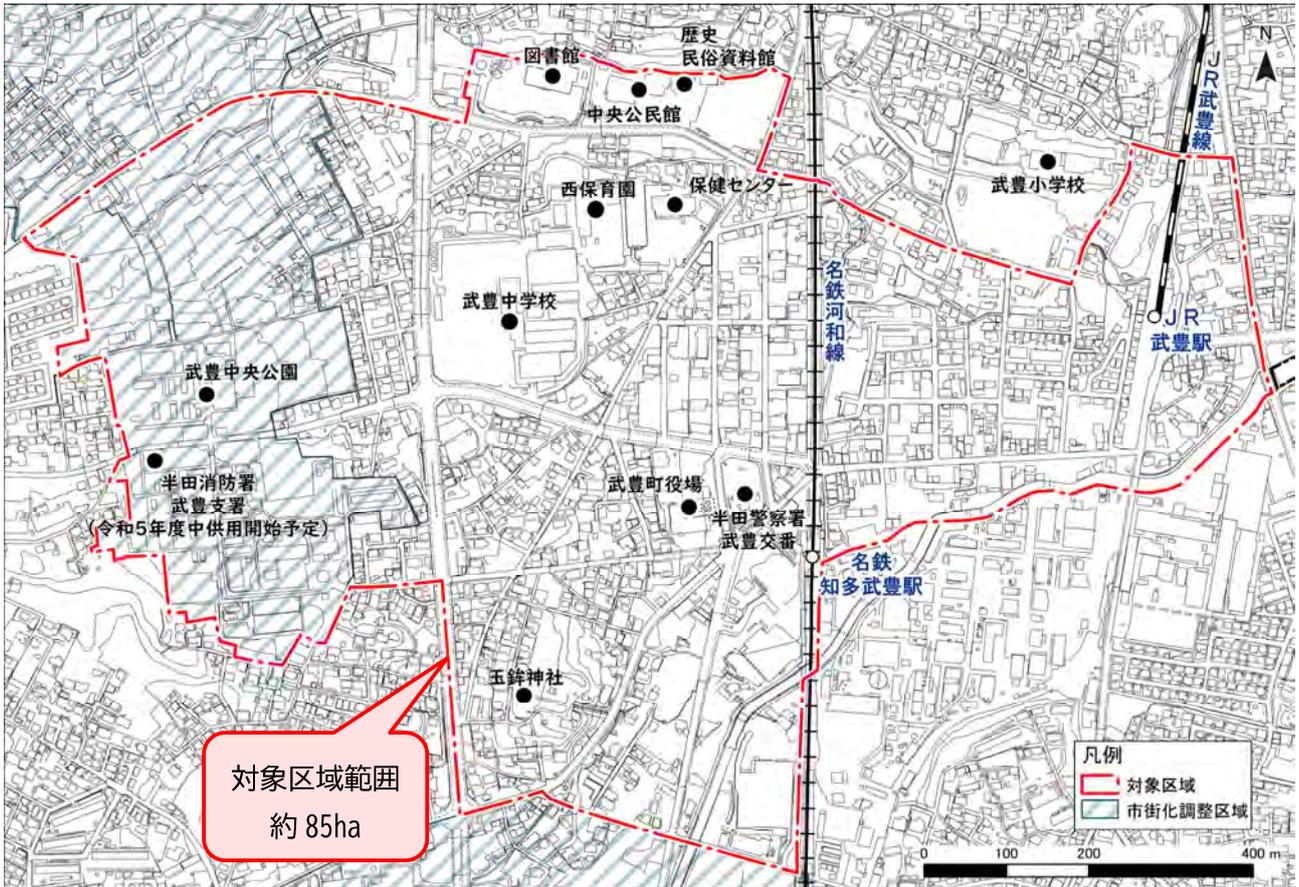
計画の実現に向けて

4. 対象区域

第6次武豊町総合計画に位置づけた都市拠点^{※1}及び公共交流拠点^{※2}を一体的な拠点としてとらえ、各土地利用検討ゾーン等の配置や道路、河川そして商業施設等の立地が想定される用途地域^{※11}（近隣商業地域、商業地域等）の指定状況等も勘案し、名鉄知多武豊駅を中心に概ね500m圏内（高齢者にとっての一般的な徒歩圏）を対象区域として設定します。

※都市拠点^{※1}および公共交流拠点^{※2}は隣接しており、空間を結ぶ道路等のインフラも共有しているため、一体的にまちづくりを進めていく必要があることから都市拠点^{※1}および公共交流拠点^{※2}を含む範囲を設定しました。

図表13 対象区域の範囲



用語解説

※1 都市拠点：1頁参照。 ※2 公共交流拠点：1頁参照。

※11 用途地域：住居、商業、工業等市街地の大枠としての土地利用を定めるもので、13種類に分類されます。それぞれの目的に応じて、建てられる建物の種類が決まります。

用途地域の例

近隣商業地域



まわりの住民が日用品の買物等をするための地域です。住宅や店舗のほか小規模の工場も建てられます。

商業地域



銀行、映画館、飲食店、百貨店等が集まる地域です。住宅や小規模の工場も建てられます。